

土の手ざわりをたしかめる仕事

5年 説明文 24番

名前

宇佐美さんは、陶芸家です。土から、茶わんや花瓶などの器を作る仕事をしています。同じ形の器でも、一つ一つ、色や手ざわりが少しずつちがいます。

きっかけは、小学生のときの図工の授業でした。ねん土とはちがう、ひんやりとして、少しざらざらした土の手ざわりに、宇佐美さんは強くひきつけられました。授業が終わったあと、しばらく手についた土のにおいをかいていたほどでした。

それから、いろいろな土をさわってみたくなりしました。近くの川原の土をとってきて水にとかしたり、図書館で焼き物の本を借りて、産地によって土の色や粘り気がちがうことを調べたりしました。同じ「土」という一つの言葉の中に、こんなにちがいがあるのかと、おどろいたそうです。

高校生になると、地域の陶芸教室に通い、実際にろくろで形を作る練習を始めました。同じ力の入れ方でも、土の水分によって形が変わることに気づき、何度も土をこねなおしては、指先の感覚をたしかめました。うまくいかない日のほうが多かったと、宇佐美さんは言います。

今、宇佐美さんは、器を作るとき、いつも土のかたさや手ざわりを、指先でいいねいにたしかめてから作業を始めます。土をねって空気をぬき、ろくろで形をととのえたあと、しばらく乾かしてから、低い温度で一度焼きます（素焼き）。そのあと、釉薬という薬をかけて、もう一度高い温度で焼き上げます。

焼き上がるまで、どんな色になるかは、窯を開けるまで分かりません。宇佐美さんは、いつも「土は、正直な材料です」と言います。ごまかしがきかないからこそ、指先でたしかめる作業を、ていねいに重ねていきます。

わたしは、一つのことをどこまでも深く知ろうとする気持ち、仕事の工夫につながることもあるのだと感じました。

この話はフィクションです。実在の人物・団体とは関係ありません

(1) 宇佐美さんが陶芸に強くひきつけられたきっかけを、文章の言葉を使って書きましょう。

(2) 宇佐美さんが、高校生になってから行ったこととして、文章に書かれている内容に最も近いものを一つ選びましょう。ア 有名な陶芸家に弟子入りした

イ 焼き物の展覧会を開いた

ウ 大学の陶芸学科に入学した

エ 地域の陶芸教室に通い、ろくろの練習を始めた

(3) 宇佐美さんが、いつも土についてどのように言っているかを、文章からそのまま書きぬきましょう。

(4) 次のうち、筆者の考え(意見)が述べられている一文を一つ選びましょう。

ア わたしは、一つのことをどこまでも深く知ろうとする気持ち、仕事の工夫につながることもあるのだと感じました。

イ 土をねって空気をぬき、ろくろで形をととのえます。

ウ 宇佐美さんは、陶芸家です。

エ 宇佐美さんは、地域の陶芸教室に通い、ろくろの練習を始めました。

(5) 宇佐美さんは、器を作るとき、どのような工程で仕事を進めていますか。四十字以上六十字以内で書きましょう。

(6) あなたには、宇佐美さんのように「もっと知りたい」と思って、調べたり試したりしたことがありますか。理由をつけて書きましょう。

書き方のヒント

「わたしは、もっと知りたいと思ったのは、です。」の形で書き始めよう。

理由には、実際に調べたり試したりした具体的な行動を入れる。

土の手ざわりをたしかめる仕事

解答

5年 説明文 24番

名前

宇佐美さんは、陶芸家です。土から、茶わんや花瓶などの器を作る仕事をしています。同じ形の器でも、一つ一つ、色や手ざわりが少しずつちがいます。

きっかけは、小学生のときの図工の授業でした。ねん土とはちがう、ひんやりとして、少しざらざらした土の手ざわりに、宇佐美さんは強くひきつけられました。授業が終わったあとも、しばらく手についた土のにおいのかいていたほどでした。

それから、いろいろな土をさわってみたいになりました。近くの川原の土をとってきて水にとかしたり、図書館で焼き物の本を借りて、産地によって土の色や粘り気がちがうことを調べたりしました。同じ「土」という一つの言葉の中に、こんなにちがいがあるのかと、おどろいたそうです。

高校生になると、地域の陶芸教室に通い、実際にろくろで形を作る練習を始めました。同じ力の入れ方でも、土の水分によって形が変わることに気づき、何度も土をこねなおしては、指先の感覚をたしかめました。うまくいかない日のほうが多かったと、宇佐美さんは言います。

今、宇佐美さんは、器を作るとき、いつも土のかたさや手ざわりを、指先でいねいにたしかめてから作業を始めます。土をねって空気をぬき、ろくろで形をととのえたあと、しばらく乾かしてから、低い温度で一度焼きます（素焼き）。そのあと、釉薬という薬をかけて、もう一度高い温度で焼き上げます。

焼き上がるまで、どんな色になるかは、窯を開けるまで分かりません。宇佐美さんは、いつも「土は、正直な材料です」と言います。ごまかしがきかないからこそ、指先でたしかめる作業を、ていねいに重ねていきます。

わたしは、一つのことをどこまでも深く知ろうとする気持ちで、仕事の工夫につながることもあるのだと感じました。

この話はフィクションです。実在の人物・団体とは関係ありません

(1) 宇佐美さんが陶芸に強くひきつけられたきっかけを、文章の言葉を使って書きましょう。

(例) 小学生のときの図工の授業で、ねん土とはちがう、ひんやりとして少しざらざらした土の手ざわりに強くひきつけられたこと。

(2) 宇佐美さんが、高校生になってから行ったこととして、文章に書かれている内容に最も近いものを一つ選びましょう。
ア 有名な陶芸家に弟子入りした
イ 焼き物の展覧会を開いた
ウ 大学の陶芸学科に入学した

(エ) 地域の陶芸教室に通い、ろくろの練習を始めた

(3) 宇佐美さんが、いつも土についてどのように言っているかを、文章からそのまま書きぬきましょう。

土は、正直な材料です

(4) 次のうち、筆者の考え(意見)が述べられている一文を一つ選びましょう。

(ア) わたしは、一つのことをどこまでも深く知ろうとする気持ちで、仕事の工夫につながることもあるのだと感じました。

イ 土をねって空気をぬき、ろくろで形をととのえます。

ウ 宇佐美さんは、陶芸家です。

エ 宇佐美さんは、地域の陶芸教室に通い、ろくろの練習を始めました。

(5) 宇佐美さんは、器を作るとき、どのような工程で仕事を進めていますか。四十文字以上六十文字以内で書きましょう。

(例) 土をねって空気をぬき、ろくろで形をととのえたあと乾かして素焼きし、釉薬をかけてもう一度焼き上げる。

(6) あなたには、宇佐美さんのように「もっと知りたい」と思って、調べたり試したりしたことがありますか。理由をつけて書きましょう。

(例) わたしは、飼っている魚がどうやって色を変えるのかが気になって、図鑑で何度も調べたことがあります。調べるほど、もっと知りたいことが出てきて、今もときどき観察を続けています。宇佐美さんのように、一つのことを深く知ろうとする気持ちは、自分にもあるのかもしれない。

書き方のヒント

「わたしは、もっと知りたいと思ったのは、です。」の形で書き始めよう。

理由には、実際に調べたり試したりした具体的な行動を入れる。

解答・解説 土の手ざわりをたしかめる仕事（5年・説明文）

この話はフィクションです。実在の人物・団体とは関係ありません。School Stock の書き下ろしで、実際にあった取材ではありません。仕事の中身は、厚生労働省の職業情報提供サイト（job tag）などの公的な資料で確かめてから書いています。子どもに紹介するときは、実在の人の話ではないことを一言そえてください。

問1 （例）小学生のときの図工の授業で、ねん土とはちがう、ひんやりとして少しざらざらした土の手ざわりに強くひきつけられたこと。

第二段落に書かれています。「図工の授業」「土の手ざわり」の二点が入っていれば正かいです。

問2 エ

第四段落に「地域の陶芸教室に通い、実際にろくろで形を作る練習を始めました」とあります。

問3 土は、正直な材料です

第六段落の、宇佐美さんの言葉を、そのまま書きぬきます。

問4 ア

文末が「～と感じました」となっており、筆者の意見です。イ・ウ・エは宇佐美さんについての事実です。

問5 （例）土をねって空気をぬき、ろくろで形をととのえたあと乾かして素焼きし、釉薬をかけてもう一度焼き上げる。

第五段落がまとめです。「ろくろで形を作る」「素焼き」「釉薬をかけて焼く」の流れが入っていれば正かいです。四十～六十字を目安にします。

問6 （例）わたしは、飼っている魚がどうやって色を変えるのかが気になって、図鑑で何度も調べたことがあります。調べるほど、もっと知りたいことが出てきて、今もときどき観察を続けています。宇佐美さんのように、一つのことを深く知ろうとする気持ちは、自分にもあるのかもしれない。

答えは自由です。自分が実際に調べたり試したりした具体的な行動を理由として書けているかを見ます。仕事につながらなくても、掘り下げた経験が書けていれば正かいです。